

急性期病院における倫理的課題解決にむけた看護管理者の取り組みについて

～臨床場面の最ももやもやした体験事例を通して～

廣瀬泰子（岐阜大学医学部附属病院） 江守直美（福井大学医学部附属病院）

鈴木美恵子（浜松医科大学附属病院） 越村利恵（大阪大学医学部附属病院）

近畿中部地区国立大学病院看護部長

【背景】

さまざまな臨床場面で看護師は倫理的な課題に遭遇する機会が多く、患者の権利擁護、QOLの維持・向上につなげるために、看護師の倫理的感受性を高めるとともに、課題解決に向けての方策が必要である。国立大学病院看護部長会議では、臨床看護師の倫理的感受性を高め、主体的に倫理的実践を行うことを提言した（国立大学病院看護部長会議，2014年）。その具体的方策の一つとして、まず近畿中部地区12大学病院看護師を対象に「大学病院の看護師に倫理的実践が求められる臨床場面に関する実態調査」を実施した（調査票回収2017年11月～2018年2月）。調査の自由回答「最ももやもやした体験」には多くの事例が記載されており、看護管理者として、これら貴重な事例を解決が求められる倫理的課題として共有し、看護管理者としてどのような取り組みをすればよいのかについて意見交換したいと考えた。

【目的】

臨床で看護師が遭遇する倫理的課題を共有し、看護管理者として課題解決に向けた方策を考える

【企画内容の要約】

「大学病院の看護師に倫理的実践が求められる臨床場面に関する実態調査」の自由回答「最ももやもやした体験」記載された事例（147例）より、記載の多かった「終末期患者の意思決定支援におけるもやもや感」として「治療を優先する医師との対立」（32事例）、「患者より家族の意思の優先」（29事例）、急性期病院における看護で昨今話題になっている「抑制実施におけるもやもや感」（8事例）を抽出した。これらの事例を集約し、回答した個人と患者が特定できる内容は省き、一部改変した事例として提供する。これらの事例から考えられる倫理的課題を共有し、倫理的課題の解決に向けて、看護管理者としての方策を検討する。参加者の体験を含めて、倫理実践強化のための体制構築やこれからの取り組み、倫理カンファレンスやリフレクション、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の浸透などについて幅広く討議する。

【ディスカッションポイント】

- ・終末期患者の意思決定支援において看護師が感じるもやもや感には、どのような倫理的課題があるか。
- ・抑制実施において、看護師が感じるもやもや感には、どのような倫理的課題があるか。（抑制実施における看護の特性をふまえて）
- ・倫理的課題の解決に向けて、看護管理者は何をとり組めばよいか。